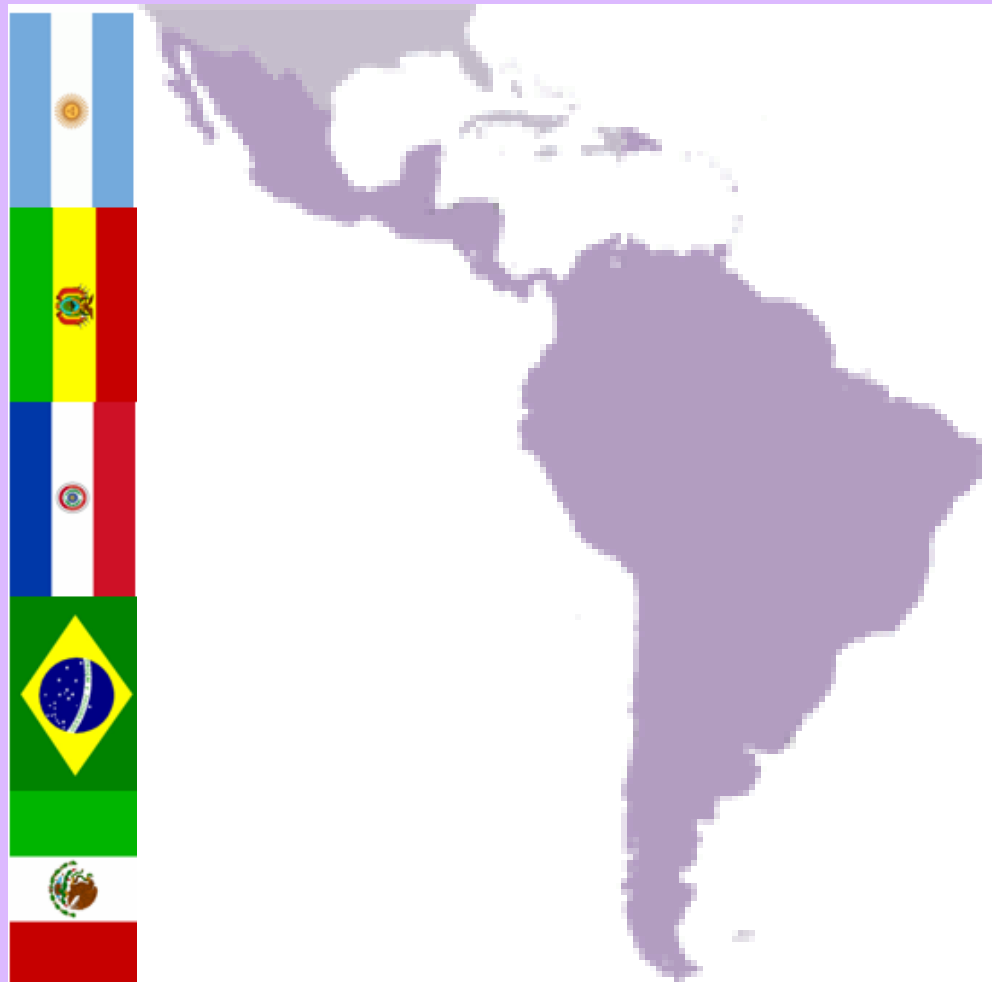


JICA 中南米地域 ジャパンデスクニュースレター



アルゼンチン・ボリビア・ブラジル・メキシコ・パラグアイ

2009年12月 第3号

【 今回のテーマ：保健医療 】

こんにちは！私たちは NGO-JICA ジャパンテスク中南米地域スタッフ（アルゼンチン・ボリビア・ブラジル・メキシコ・パラグアイ）です！本邦NGO、学術機関、個人などの国際協力を草の根単位で参加する皆様とより協力しあえるよう中南米地域スタッフ共同でニュースレターを四半期ごとに作成しています。中南米で支援をしてみたい・する予定は無いけれども中南米に興味がある方、どうぞ一読ください！



ジャパンテスクって何？

NGO-JICA ジャパンテスクとは、日本の NGO の皆さんが U 開発途上国の現場で国際協力を行う際の支援 U と、UNGO と JICA の連携促進 U を目的としています。

活動内容

- 現地基礎情報、援助関連情報、NGO 活動に必要な法律・制度等の紹介
- 現地 NGO 情報の収集と提供、現地 NGO 紹介
- 各種相談への対応

- 草の根技術協力事業の案件発掘や実施中案件のモニタリング
- NGO 人材育成関連の研修や、本邦 NGO に対する技術者派遣にかかる調整

- 帰国研修員同窓会や JICA ボランティアなど JICA 側人材リソースの情報整備
- セミナー、ワークショップ等を通じた交流促進

IN THIS ISSUE

IN THIS ISSUE	
アルゼンチン	3
ボリビア	6
ブラジル	8
メキシコ	12
パラグアイ	15



アルゼンチンにおける保健医療

アルゼンチンの NGO はどのような活動を行っているのか？

■ HIV

アルゼンチンでは HIV 感染者が 15 万人に到達しているものの、うち 65% は自分が感染していることを知らず、その結果、医学検査や治療へのアクセスが遅れ、無意識のうちに同感染症の蔓延に貢献してしまっている。そのため、アルゼンチンで 3 人に 2 人は“自分は感染していない”と思っているけど、あなたは？というスローガンの下、寄生病対策財団は HIV 検査を促進する目的で“3 人に 2 人”キャンペーンを開始した。

同財団はアルゼンチンの団体で、エイズを人間の間で感染する生物学的疾患としてのみならず、HIV ウィルス感染者のための適切な社会環境の存在が必要となる重大な社会的問題として据え、1989 年よりエイズ対策に力を入れて取り組んでいる。



プログラム:

- ✓ 新たな治療薬および HIV エイズに関連した疫学、心理社会、ヒューマン分野における科学的プロジェクトに参加する。
- ✓ 包括的な予防戦略を通じて、一般人向けおよび弱者をターゲットとした保健医療促進プロジェクトを展開する。
- ✓ HIV エイズに関する情報が明確、簡潔、効果的に全ての人々に届くよう、公共のキャンペーンを設計・展開する。
- ✓ HIV 感染者への支援およびサービスを提供する。病院の訪問、無料での心理的および法的なケア、感染した子供たちが収容されている施設ロス・ケルビネスへの支援を行う。
- ✓ 国際学術シンポジウムおよび継続的な医療およびパラメディカル研修を開催する。

出典：www.huesped.org.ar (英語とスペイン語版ウェブサイト)

■ ガン

2008 年 11 月 10 日に創立 32 周年を迎えた SALES 財団は、ガンに関する研究を実施・支援している。同財団は CONICET (国立科学技術研究委員会) との協定の下、年間予算を確保して科学技術の移転および特許を提供し、優秀なアルゼンチン人研究者や数多くのノーベル賞受賞者の助手に対するサポートを行っている。

プログラム:

- 腫瘍ワクチンプログラム：1970 年にノーベル化学賞を受賞したルイス・フェデリコ・ルロワールが創設したルロワール研究所財団にて実施。
- 乳がん対策プログラム：1947 年にノーベル医学賞を受賞したバーナード・ウッセイが設立した生物学・実験医学研究所にて実施。
- ガン免疫学プログラム：前述の研究所にて実施。



同財団は学校での禁煙プログラムやセルフケアプログラムに対する支援も実施し、患者とその家族に対して心理的支援、栄養指導、医師のアドバイスによる身体活動といったサービスを無料で提供している。

出典： www.sales.org.ar (英語とスペイン語版ウェブサイト)

■ 子供の栄養失調



ウエルタ・ニーニョ財団は、栄養失調や栄養不良の事例がみられる農村部の小学校で、持続可能な解決策を提供するために団結して活動を行っている。



プログラムは“子供の菜園”と呼ばれる全ての菜園を束ね、その目的は以下のとおりである。

A) 孤立した貧しい農村部の学校に共同菜園を作り、栽培モデルと各家庭にあるツールを用い、全教育課程において生徒たちに食料を供給する。

B) “農村部の学習モデル”を開発し、子供たちが最大限に自身が置かれた環境の恩恵を受けられるようにする。

C) 管理能力を構築し、教育コミュニティ

のメンバーの間での協力作業を促進し、農村部の学校をコミュニティー活動を行うためのセンターとして強化する。

出典： www.mihuerta.org.ar (英語、フランス語、ポルトガル語とスペイン語版ウェブサイト)

■ 極貧



NPO 団体の UTPMPA (私の国、アルゼンチンに屋根を) は、都市スラムに住む極度の貧困状態にある世帯と活動を行っている。

ボランティアと住民の共同作業による仮設住宅の建設と社会的エンパワーメント計画を通じ、現在貧困の中で生活する家族の生活の質を改善することを模索している。ラテンアメリカで数百万人が生活するスラムの現実を見せることで社会全体の介入を促し、より結束したアメリカ大陸を構築するための作業に市民を関与・参加させることを意図とする。

非顧客主義的な独自の社会介入モデルは、以下の3つのステージにより構成される。

1. 仮設住宅の建設
2. 包括的な社会的エンパワーメントプログラムの実施
3. 持続可能なコミュニティー



・同団体をラテンアメリカで大きな影響力を持つ青年ボランティアの最大の組織にし、より公正で貧困のない大陸を実現するという夢の下で数千人の若者たちを統一し、彼らが各国でラテンアメリカ共通の目的のために関与・活動する。

・具体的な活動と課題を通じて同組織を強化する。“極度の貧困の中で生活し、尊厳ある場所を持たない家族用の最小住宅の建設を通じてコミュニティー開発を促進する”。

-
- ・政府、企業、メディア、家族などの積極的な参加を促進し、若者たちが社会全体をこの共通の課題に参画させる。

出典： www.untechoparamipais.org.ar (スペイン語版ウェブサイト)

JICA アルゼンチン事務所は様々な形態の協力を通じて数多くの政府機関および非政府機関への支援を実施し、各プロジェクトにおいて保健医療に関する課題に横断的に取り組んできた。アルゼンチンで実施された主なプログラムは以下のとおり。

- 健康管理システム - 保健省 - ニツカイ共済会 (1977 年 ~ 1982 年)
 - サン・ロケ病院の消化器診断研究センター - 保健省、コルドバ州政府 (1985 年 ~ 1990 年)
 - 産業公害防止プロジェクト - 国立水研究所 (2001 年 ~ 2005 年)
 - 保健医療分野のプロフェッショナル向け本邦研修
 - 病院への機材供与プログラム (1972 年 ~ 1994 年)
- ✓ 一致団結すれば、より良い未来を構築することができます！
- ✓ もし貴方が NGO、大学、市民団体、病院等とコンタクトがあり、上記の団体もしくは他の団体への支援を希望する場合は是非当デスクまでご連絡ください。
- ✓ 協力の形態については、当デスクのホームページをご参照ください。 http://ngo-jica.org.ar/japones/cooperacion_japan.htm

皆様のご意見とご感想をお待ちしております！



NGO-JICA Japan Desk アルゼンチンコーディネーター
アルゼンチン事務所 喜屋武 ジュディー (日本語・スペイン語・英語)
電話番号: (+54-11) 4313-8901 - Fax: (+54-11) 4313-5778
電子メール: jicaag-jd@jica.go.jp
Web: <http://www.ngo-jica.org.ar>



現地 NGO “AYNISUYU” の介入による JICA ボリビアの保健医療に於いての協力

ボリビアでの保健医療分野に於いての日本の協力は、保健医療ネットワーク強化計画という意味の PROFORSA と称する保健医療計画を通して行われている。この計画の目標は MDGs ミレニアム開発目標及び人間の安全保障の原則に応えるものであり、その内容は「必要不可欠な基本サービスへのアクセスの確保」及び「人のエンパワーメント」として要約できる。

PROFORSA には様々な無償資金協力や技術協力のプロジェクトが含まれており、その内の一つとして 2007 年 12 月に開始したコチャバンバの東部に位置し、第 2 保健医療ネットワーク-プナタを構成するヴァリエ・アルトの 8 つの町村で展開されている「権利・異文化受容・ジェンダーに焦点をあてた、コチャバンバ県母子保健医療ネットワーク強化プロジェクト-FORSA コチャバンバ」が挙げられる。

コチャバンバ FORSA プロジェクト



■ 学校での保健情報提供キャンペーン

■ 技術移転をする JOCV ボランティア

■ 保健サービス利用者への対応

この技術協力プロジェクトは、技術移転による現地の能力強化に向けて力を入れており、家族・コミュニティ・異文化保健医療-SAFCI、社会運動、保健医療の促進及び保健医療制度に関する国家の指導権の回復等、ボリビア政府の保健医療政策と緊密な歩調も取っている。

まず最初の構成部分は、保健医療サービスに於いての人及び設備の技術的能力の強化に向けられており、第二の構成部分はコミュニティ及びその組織の保健医療面に於ける問題や必要性等の特定及び分析を行なうための能力の強化を目指している。そして、第三の構成部分は町村及び県保健局の保健医療ネットワークの管理能力の強化に向けられている。

今日まで、介入の成果としては医療機関での妊婦の検診数の増加、より広範囲での予防接種及びコチャバンバ市内の病院への患者の移送数の減少、並びに利用者に対する良好なインパクト等が挙げられ、これらはネットワーク上の大半の機関が取り戻したイメージでうかがえる。

NGO AYNISUYU の介入

コミュニティー参加の第二の構成部分の中で、戦略として現地の非政府組織と協同で活動を行い、彼らが持つコミュニティー及びその文化に関して蓄積された知識を活かすことが選択された。このような理由で、ヴァリエ・アルトの地域で長年に亘って活動してきた AYNISUYU 団体が選ばれた。

JICA のプロジェクトへの AYNISUYU の介入は、活動区域に於いて、JICA の FORSA プロジェクトの目標及び原則の達成に貢献するために、より良い保健医療とコミュニティーの組織的構成部分の発展での調整を行い、努力・活動や日程の重複を避け、チームの距離をより縮めることを可能とした。この面に関しては、AYNISUYU の主な役割は、総合・異文化間の戦略の枠組みに沿った、組織化されたコミュニティー、地域保健委員会 (DILOS)、町村役場、保健医療ネットワーク管理局、県保健局 (SEDES) 及び民間人等の参加によって形成された社会運動や促進活動を通して上質の保健医療サービスへのアクセスのより良い環境を整えることである。

同じく、コミュニティー組織への支援は基本的に若者と女性の 2 つの対象グループに向けられている。これは、これらの層が一番家庭内暴力や性的暴力の課題に関係している上、性と生殖に関する健康及び母子死亡率の面で重要性を持っているからである。

※ NGO AYNISUYU に関する詳しい情報はホームページ (スペイン語) : <http://www.aynisuyu.org> でご覧いただけます。



NGO-JICA Japan Desk ボリビアコーディネーター
担当者 : Edgar RODRIGUEZ (スペイン語・英語)
電話番号: (+591-2-242-2221 - Fax: +591-2-211-4278
電子メール: japandesk@jica-bo.org
<http://www.ngodeskjica-bo.org>



ブラジルにおける保健分野の協力

JICAは対ブラジル二国間協力及びブラジルと協働で他国を支援する三角協力の中で、数々の「保健医療」分野での協力を行ってきております。その数は約70案件（本邦研修事業含まず）にもなり、どれほど日本がブラジルに対する、或いはブラジルと共同で実施する「保健医療」協力を重要視しているのかが数字からも見てとれます。その中でも特に重要な協力として、ベルナンブコ連邦大学と実施している「熱帯病」「公衆衛生」「健康なまちづくり」、ブラジル全土で展開している乳幼児死亡を少なくするための「人間的出産・出生の推進」に関する協力、ワクチン生産技術向上、カンピーナス大学と実施してきている「消火器病診断研究能力向上」「HIV/AIDS診断能力向上」に関する協力などがあげられます。

今回は第二号に続き特に市民参加協力と関係の深い現在実施中、または実施済の下記の3件を紹介いたします。

- 「アマゾン地域保健強化プロジェクト」（草の根技術協力事業・パートナー型）
- 「アマゾン遠隔地学校における健康づくりプロジェクト」（草の根技術協力事業・パートナー型）
- 「ろう者組織の強化による非識字者層の障害者へのHIV/AIDS教育」（草の根技術協力事業・パートナー型）

「アマゾン地域保健強化プロジェクト」（草の根技術協力事業・パートナー型）

協力機関：2003年度 ～ 2005年度

実施団体：HANDS（Health and Development Service）

概要：アマゾン地域の住民の健康状態を向上を目的とし、保健ワーカーの機能・能力向上を通じて、自律発展性の高い地域保健システムを構築する。



「アマゾン遠隔地学校における健康づくりプロジェクト」草の根技術協力事業・パートナー型）

協力期間：2007年度 ～ 2009年度

実施団体：HANDS（Health and Development Service）

概要：アマゾン地域の住民の健康状態の向上を目的とし、教師及び保健ワーカー育成、学校における保健教育の向上、学校衛生環境の整備を通じて、学校を拠点とした地域保健システムの強化を図る。



「ろう者組織の強化による非識字者層の障害者へのH I V / A I D S教育」（草の根技術協力事業・パートナー型）

協力期間：2008年度～2010年度

実施団体：D P I（障害インターナショナル）日本会議

概要：ろう者組織によるろう者及び非識字層障害者に対するH I V / A I D S教育。ろう者が主体となった教材作成、ろう者講師の育成を行うことで、ろう者に理解しやすい教育の基盤を作り、州政府と連携し州全体で非識字者層の障害者へ同教育を展開する。



社会的格差、地域開発格差が非常に大きいブラジル

において、コミュニティーのエンパワーメントにつながるN G O等社会団体の活動は非常に重要であり、その中で草の根技術協力事業は保健分野でも大きな成果をあげております。

お知らせ「ブラジル国民生活向上貢献計画」～草の根技術協力事業紹介ワークショップの開催

現在J I C Aブラジル事務所ジャパンデスクでは、ブラジル各地における草の根技術協力事業紹介ワークショップを開催いたしております。

日本の団体に少しでもブラジルのことを知ってもらうため、また、ブラジル団体に少しでもJ I C A事業を知ってもらうため、日々の活動において精一杯力を尽くしております。

第一回ワークショップ報告（ポルトガル語）：

http://www.jica.go.jp/brazil/portuguese/office/news/091111_01.html

<出席団体リスト>

▪ Instituto Sou da Paz

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.soudapaz.org/>

英語版ウェブサイト <http://www.soudapaz.org/Default.aspx?alias=www.soudapaz.org/en>

▪ Care Brasil

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.care.org.br/>

英語版ウェブサイト <http://www.care.org/>

▪ Fundação Formula Cultural

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.formulacultural.com.br/formulacultural/Portugues/index.php?pg=0>

- **Liga Nacional de Esportes e Aventura**

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.linea.org.br/>

- **Instituto LARAMARA**

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.laramara.org.br/portugues/index.php>

- **Cidade Sem Fome**

ポルトガル語版ウェブサイト <http://cidadessemfome.org/pt/>

英語版ウェブサイト <http://cidadessemfome.org/en/>

- **Selva - Sociedade Ecológica Verde Amarelo**

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.cotianet.com.br/eco/>

- **Fundação Santa Casa de Misericórdia – 病院**

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.santacasade Franca.com.br/fccmf/>

- **Fundação Florestal**

ポルトガル語版ウェブサイト <http://www.fflorestal.sp.gov.br/>

※ 日本語版報告書、第一回出席団体のプレゼンテーションをご覧になりたい方は送付いたしますので、ご連絡ください。

ブラジルの団体（NGO、大学、市民団体、病院等）と一緒に何かしたい！！ブラジル国民の生活向上のために貢献したいという方は、下記のコンタクト先までご連絡ください。



NGO-JICA Japan Desk ブラジルコーディネーター
ブラジル事務所 西川 ケーリ（日本語・ポルトガル語・英語）
電話番号: +55-61-3321-6465
電子メール: Jicabr-ngo@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/brazil/portuguese/office/>



メキシコ合衆国

こんにちは！ メキシコジャパンデスクの川崎です。

メキシコではインフルエンザ騒動も落ち着き、日墨交流 400 周年のイベントで関係者のみならず市民の皆様、NGO 関係者も共に賑わっております。

メキシコと関係のある市民の皆様どうぞこの機会にメキシコにお立ち寄りください。

草の根技術協力事業 保健医療案件

1. 「保健医療従者と思春期ピアリーダーによる

健康的なライフスタイル作りシステム化支援事業」

自治医科大学がベラクルス州保健局へピアリーダーによる健康づくりのシステム化を支援しています。ピアリーダーとは地域の健康問題を捉え、問題解決に向けたカウンセリングができるよう訓練された若者であり、彼らが仲間内で解決していくことによって地域の健康問題が草の根レベルで改善されるようになることを目指しています。同プロジェクトは第2フェーズであり、先行プロジェクト「保健医療専門家とピアリーダーによる健康なライフスタイルづくり計画」によって育成されたピアリーダーの活動を保健局レベルでシステム化させていくものであります。



2. 「口唇口蓋裂総合治療における人材育成」

大阪大学第一口腔外科がチアパス州とベラクルス州の保健局へ口唇口蓋裂総合治療の人材育成を実施しています。口唇口蓋裂（こうしんこうがいれつ）とは先天性異常のひとつであり、唇と口蓋部分が閉鎖しないまま生まれてくる病気です。メキシコの先住民の発症率は高く、この症状を生まれてくる子供達への対処がなされず、摂食障害や屋内に引きこもるケースがよく見られます。同プロジェクトでは日本の口唇口蓋裂手術・言語治療・歯科矯正治療の技術を2州の保健局の医師や看護師・歯科医師などへ移転して、メキシコ国内での総合治療医師チームをつくりあげるものです。現在プロジェクト2年目であり、両州への技術指導や保健局側の医師の本邦研修が行われてきました。



保健医療関係 NGO 紹介

	団体名	活動内容	連絡先
1	Asociación Mexicana de Ayuda a Niños con Cáncer, IAP (AMANC)	癌を患った児童への医療援助。また、4州に設置された医療センターではリハビリ・教育等も行っている。	http://www.amanc.org/ amanc1@amanc.org
2	Asociación Pro Personas con Parálisis Cerebral (APAC), IAP	小児麻痺の患者への教育・職業訓練・医療サービス・リハビリを実施。	http://www.apac.org.mx/ apacpatronato@prodigy.net.mx
3	Asociación Psicoanalítica de Orientación Lacaniana, Asociación Civil	自閉症児童へのケアを目的とした教育・訓練と、家族への精神面でのケアを実施。	http://www.apol.org.mx/ apol@apol.org.mx
4	Centro Interdisciplinario para el Desarrollo Social (CIDES), IAP	ストリートチルドレンまたはホームレスになった先住民に対する研修・医療サービス・食事支援を実施。	aliciavargas4@hotmail.com
5	Drogadictos Anónimos A.C.	薬物中毒者へ当団体独自の12段階リハビリと精神セラピーにて援助。	www.drogadictosanonimos.org ofinacentral@drogadictosanonimos.org
6	Fundación Dar y Amar (DAYA) IAP	20歳までの児童と妊婦の保護施設を有し、食事・医療サービス・教育と総合的なケアを実施。	www.daya.org casadaya@prodigy.net.mx
7	Fundación Mexicana para la Lucha contra el SIDA A.C.	HIV患者への相談・医療サービス・ケア研修・医療従事者への研修などを実施。	www.fundasida.org.mx presidencia@fundasida.org.mx
8	Fundación MICHOU y MAU I.A.P.	火傷を負った貧困家庭の児童への医療援助。	www.fundacionmichouymau.org buzon@fundacionmichouymau.org
9	Fundación Nacional de Mujeres por la Salud Comunitaria	当国女性(特にインディヘナ)の健康問題に関して医療サービスや研修で、子宮頸癌・性感染症・DV・若年出産への対策を行う。	fundacion.nacional@gmail.com
10	Integración Down, IAP	ダウン症患者への児童教育・職業訓練・家族へのケア指導などダウン症への総合的な活動。	http://www.integraciondown.org/ integracion@integraciondown.org

11	Parto Libre A.C.	オアハカ、D.F.の公共病院でリプロに関する研修の提供。また、産婦人科医師・助産士・看護師などの紹介を実施。	www.partolibremexico.org partolibre@yahoo.com
12	Asociación Centro de Rehabilitación para ciegos I.A.P. (ACREC)	視力障害者への眼科医療サービス・貧困地域での予防キャンペーン・リハビリセンターでのケアを実施。	www.acrec.com.mx acrecdir@prodigy.net.mx
13	Fundación Kari A.C.	障害者児童への身体と精神的リハビリと医療サービスを実施。	www.fundacionkari.org.mx fundacionkari@gmail.com

NGO-JICA Japan Desk メキシココーディネーター
 メキシコ事務所 川崎 恵子（日本語・スペイン語・英語）
 電話番号: +52-55- 5557-9995 - Fax. 52-55-5395-0063
 電子メール: jicamx-Japandesk@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/japandesk/mexico/index.html>



パラグアイでは、人口の4割が医療サービスにアクセスできていないと言われています。アクセスできない理由には「地域に医療施設がない」、「医者がいない」、「お金がない」、「薬がない」、等様々な要因が挙げられますが、「薬草を飲んでいれば治る」というような伝統的な医療に対する信仰が根強いことも一因です。また、アクセスできたとしても、機材の不足、人材の質、保健医療システムの機能不全等が原因で適切な処置ができないことが多く、適切な処置があれば助かるはずの命が失われています。

多くの課題に面するパラグアイの保健医療分野において JICA はこれまで、「乳幼児死亡率の改善」と「妊産婦死亡率の改善」に特化した「人材育成」に係る協力を実施してきました。具体的には、看護師・助産師を中心とした医療人材への継続教育(リプロダクティブヘルス、乳幼児健診等)を通じた人材育成です。

JICA は厚生省と共に「パラグアイ南部看護・助産継続教育強化プロジェクト」をパラグアイの南部地域の4県で実施しました。この技術協力プロジェクトにより厚生省の一組織として国立看護・助産教育センター (INEPEO) が設立され、各県において8名~10名のファシリテーターと呼ばれる指導者が育成され、彼らは、各地域の看護師、助産師達に研修を行ってきています。



2008年1月からパラグアイにおける新規6県を対象に継続教育システムを普及することを目的とした「看護・助産人材継続教育強化プロジェクト」が3年間の予定で実施されています。現在 INEPEO は5つの領域(小児、母性、地域看護、基礎看護及び看護管理)に関する研修を実施していますが、今後 INEPEO は新たな領域及び研修プログラムを自ら開発し、継続教育を実施していく予定です。看護・助産人材の能力向上が地域医療サービスの向上に直結するパラグアイにおいて、JICA プロジェクト終了後も INEPEO が質の高い研修を継続できるよう、専門家・カウンターパートが一丸となって取り組んでいます。

NGO 紹介！

パラグアイでは、エイズ等の保健分野に取り組む NGO もありますが、今回は**障害者支援**を積極的に行っている APAMAP と SARAKI 財団を紹介します。

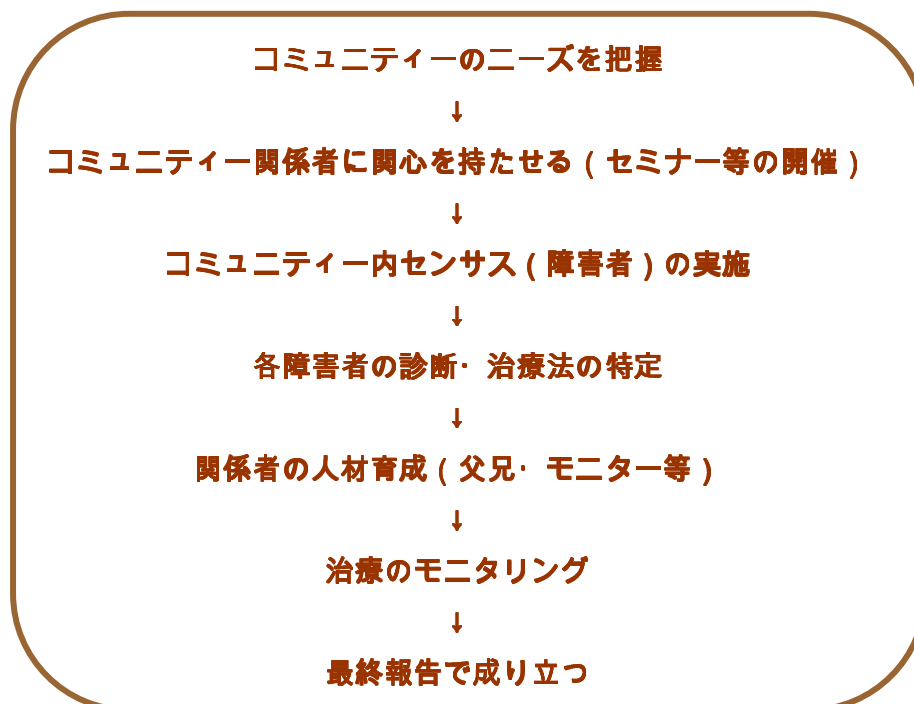


・ FUNDACION APAMAP

Fundación APAMAP は、1986 年 1 月 11 日に障害者の父兄によって、障害者に対するサービス提供を実施することを目的として、ブラジルとの国境に位置するシウダ・デル・エステ市に設立されました。

1999 年より、非営利団体として正式に登録し、教育、リハビリ、コミュニティへの自覚活動をもって、障害者が市民権を失わないための活動を活発的に実施しています。

その中で、1992 年より「**コミュニティベースのリハビリテーション (Rehabilitación basada en la comunidad (R.B.C.))**」活動を開始し、コミュニティで、父兄、ボランティア、医療・教育機関の関係者を交え、コミュニティ内で障害者のリハビリ活動等を支援するプログラムを実施しています。



2003 年から 2005 年にかけて、JICA は APAMAP に対し“コミュニティベースの地域リハビリテーション”プロジェクトを実施しました。

“各地区で傷害を防止する必要な技術・知識を習得し、各コミュニティーで障害者の治療を適切に対応すること”を目的とした当プロジェクトの直接裨益者は1,550名、間接裨益者は5,720名でした。成果としては、個人のリハビリ・プログラムが策定され実行される、プロジェクトを通じてコミュニティーが強化されるなどが挙げられます。JICAのプロジェクト終了後もAPAMAPは、障害者支援を積極的に行っており、プロジェクトも多々計画していますが、経済的な問題に直面し、プロジェクト実施に悪戦苦闘しています。



西語版ホームページ⇒ <http://www.apamap.org.py>

▪ FUNDACION SARAHI

SARAHI 財団は、障害者の生活改善を目的とした NGO です。

1996年に障害者向けのダンスや演劇クラブとして始めて、2003年には障害者の積極的な社会参加を目的とした SARAHI 財団として設立しました。

SARAHI 財団は、主に次のテーマを中心に働いています。

- ✚ 障害者の社会アクセスと参加のチャンス
- ✚ 障害者の就職活動
- ✚ 演劇を通じての意識改革
- ✚ 障害者向けのリクリエーションひろば

“障害者の社会アクセスと参加のチャンス”プログラムは、各市で市民団体が障害者の社会参加促進を積極的に働きかけることを目的としています。

障害者支援を行うにしても、パラグアイでは障害者の正確なデータが乏しいため、

そこで、現在ジャパンデスクの活動の一環として、SARAHI 財団が当プログラムを実施している7市で障害者実態調査を行う予定です。

パラグアイでの障害者支援は、始まったばかりだと言えます。地方ではまだまだ障害児の存在を隠し、人間として尊厳のある扱いを受けていない者が沢山います。

APAMAP や SARAHI 財団のような NGO と一緒にパラグアイで障害者支援活動をしてみませんか？

西語版ホームページ⇒<http://www.saraki.org.py/>

NGO-JICA Japan Desk パラグアイコーディネーター
パラグアイ事務所 高橋 ナルミ（日本語・スペイン語・英語）
電話番号: +595-21-60-8400/60-8404
電子メール: jicapg-ngodeskpy@jica.go.jp
<http://www.japandesk.org.py>